

平成28年（2016年）全国犬猫飼育実態調査 結果

犬・猫 推計飼育頭数全国合計は、1,972万5千頭
（犬：987万8千頭、猫：984万7千頭）

猫の飼育頭数は横ばいであるが、犬の飼育頭数は減少傾向。飼育阻害要因は前回同様、「集合住宅のため禁止」「十分世話ができない」「お金がかかる」「死ぬとかわいそう」「別れが辛い」が上位となった。犬飼育マナー向上にむけて、「排泄物をきちんと始末すること」「外出時は必ずリードを付けること」が飼育者、非飼育者とも上位となり、意識が共通している結果となった。

ペットフードの事業者を中心とした95社（正会員60社、賛助会員35社）で組織する一般社団法人ペットフード協会【東京都千代田区、会長：石山恒】は、平成28年（2016年）全国犬猫飼育実態調査を行ない、この度その結果がまとまりました。主な結果は次の通りです。

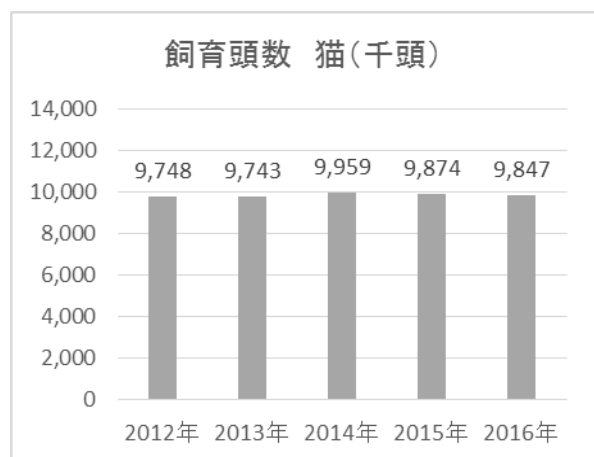
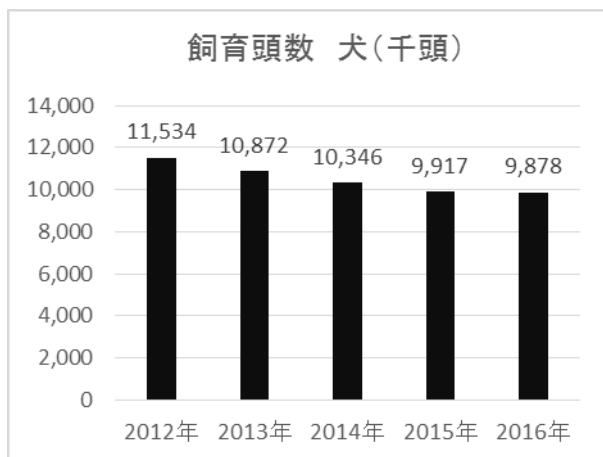
1. 平成28年度 全国犬・猫 推計飼育頭数

全国の推計飼育頭数 犬：987万8千頭、猫：984万7千頭。

時系列でみると、猫の頭数は昨年とほぼ同じ、犬の頭数は減少傾向にあります。

	世帯数 (単位：千)	飼育世帯率	飼育世帯数 (単位：千)	平均飼育頭数	飼育頭数 (単位：千)
<犬>	55,812.0	14.16%	7,902	1.25	9,878
<猫>	55,812.0	9.93%	5,542	1.78	9,847

尚、猫の頭数調査結果には外猫の数は含まれておりません。



2. 平成28年 犬猫の年代別現在飼育状況

年代別での飼育状況を見ると、50才代での犬及び猫の飼育率が最も高く、次いで60才代となっています。また70才代での犬及び猫の飼育率が最も低い結果となりました。

() は昨年(平成27年)の数字

	犬	猫
20代	13.4% (14.1%)	8.8% (9.2%)
30代	12.0% (12.2%)	9.1% (8.9%)
40代	13.9% (12.9%)	9.8% (9.8%)
50代	16.7% (17.5%)	11.3% (11.5%)
60代	14.7% (15.6%)	10.4% (10.9%)
70代	10.2% (10.7%)	7.4% (7.0%)

3. 平成28年 犬・猫平均寿命

犬全体の平均寿命は14.36歳、猫全体の平均寿命は15.04歳でした。犬は、超小型犬、小型犬の寿命が長く、また、猫の場合、「家の外に出ない」猫の平均寿命は15.81歳、「家の外に出る」猫の平均寿命は13.26歳と寿命に大きな差がありました。犬も猫も、寿命が延びてきていることがわかります。

4. 平成28年及び平成27年の 飼育意向率

今後の飼育意向は、犬が23.1%、猫が16.9%で、犬、猫とも減少となりました。
飼育意向のある方々が犬、猫を飼育できるような環境の整備やサービスの向上が将来に向けての飼育頭数拡大に必要といえます。

	犬	猫
平成28年度飼育意向率	23.1%	16.9%
平成27年度飼育意向率	24.5%	17.2%

5. 平成28年 ペットを飼う効用

犬又は猫の飼育者はペットを飼う前と比べて、情緒面、コミュニケーション、健康など、様々な効用があることが明らかになりました。()は去年の数字。

16歳未満の子供の場合

－心豊かに育っている	71.1% (60.7%)
－生命の大切さをより理解するようになった	66.0% (59.4%)
－家族とのコミュニケーションが豊かになった	60.7% (53.1%)

高齢者の場合

－情緒が安定するようになった	47.7% (45.0%)
－寂しがることが少なくなった	47.5% (44.4%)
－ストレスを抱えないようになった	41.2% (37.8%)

夫婦関係の場合

－夫婦の会話が多くなった	58.6% (57.4%)
－夫婦の関係がなごやかになった	45.3% (45.2%)
－夫婦で過ごす時間が多くなった	36.5% (35.6%)

自分自身の場合

－生活に潤いや安らぎを実感できるようになった	54.2% (56.5%)
－孤独感を感じなくなった	53.3% (54.3%)
－ハリのある生活が送れるようになった	41.9% (41.8%)

6. 平成28年 今後ペットの飼育促進に向けて

今後ペットの飼育促進に向けて「阻害要因」、「あったらいいと思う飼育サービス」、「飼育のきっかけ」への回答として挙げられた上位項目は以下の通りとなりました。(複数回答)

阻害要因

1. 集合住宅に住んでいて禁止されている	28.8%
2. 十分に世話ができない	25.4%
3. お金がかかる	23.7%
4. 死ぬとかわいそう	22.8%
5. 別れが辛い	22.8%

あったらいいと思う飼育サービス

1. 旅行中や外出中の世話代行サービス	41.0%
2. 高齢で飼育不可能な場合の受入施設提供サービス	28.3%
3. 健康保険料、生命保険料などが減額になるサービス	27.6%
4. 飼育が不可能な場合の引き取り手斡旋サービス	27.5%
5. しつけ代行サービス	18.4%

飼育のきっかけ

犬

1. 生活に癒し・安らぎが欲しかったから	32.4%
2. 以前飼っていたペットが亡くなったから	25.0%
3. 家族や夫婦のコミュニケーションに役立つと思ったから	18.3%

猫

1. 生活に癒し・安らぎが欲しかったから	28.1%
2. 以前飼っていたペットが亡くなったから	21.3%
3. 家族や夫婦のコミュニケーションに役立つと思ったから	10.8%

犬の飼育上、不便・不都合なこと

1. 医療費が高い	42.8%
2. 犬と一緒に旅行ができない	32.4%
3. 犬を連れて飲食店に入れない	27.5%
4. 犬を連れて泊まれる宿泊施設が少ない	24.6%

ペット飼育マナーの向上にむけて

- | | |
|--------------------|-----------------------------------------|
| 1. 排泄物をきちんと始末すること | 飼育者（意識している）：73.7%
非飼育者（守ってほしい）：75.3% |
| 2. 外出時は必ずリードを付けること | 飼育者（意識している）：63.8%
非飼育者（守ってほしい）：56.5% |

7. 平成28年 ペットフードのタイプ別利用率（複数回答）

犬猫共に市販のドライタイプのペットフードの利用が9割近くあり、ほとんどの飼育者が何らかの市販のペットフードを利用しています。

また、犬、猫ともに「おやつ」をあげる人が増えてきています。

（ ）は去年の数字

ペットフードのタイプ	犬	猫（外猫を除く）
市販のドライタイプ	85.1%（85.0%）	91.8%（92.0%）
市販のウェットタイプ	24.7%（24.4%）	49.3%（48.4%）
市販の半生タイプ	17.8%（17.5%）	14.6%（13.4%）
市販のおやつ	36.1%（35.9%）	28.7%（25.3%）
ペット用療法食	6.9%（6.6%）	10.6%（8.9%）
手作りのペット用食事	12.7%（13.7%）	4.3%（3.9%）
人間の食事の残り	7.2%（7.7%）	4.5%（4.2%）
その他	3.3%（3.0%）	2.8%（3.0%）

8. 平成28年 1ヶ月当たり支出総額

犬猫それぞれの支出総額は以下の通りです。（ ）は去年の数字

犬に関する支出総額（医療費等含む） ￥8,136（￥7,841）

猫に関する支出総額（医療費等含む） ￥5,435（￥5,087）

以上